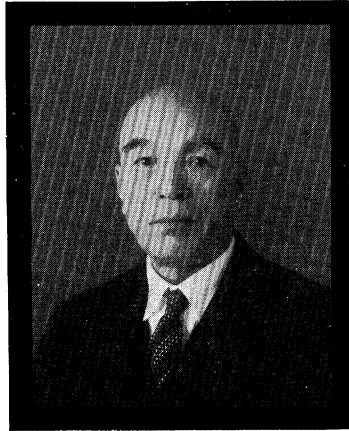


故 名 誉 員 前 会 長 谷 口 三 郎 君 略 歴

谷口三郎君は、明治 18 年 (1885) 4 月 7 日広島県五日市に生れ、明治 42 年 7 月、東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後、ただちに、北海道庁に入り、主として小樽、留萌の築港工事を担当し、大正 4 年内務省に転じ、わが国直轄河川その他の改修計画に携わ*



(谷口三郎氏遺影)

られたのである。

昭和 17 年退官されてからは、鴨緑江、黄河等の外地河川の治水に尽力せられたので終戦後、中国要人から特に乞われて、山西省自然科学研究院顧問、汾河水利事業委員会総エンジニアとして、治水事業の指導に当られたが、その間の消息は著書“大陸の曲線”に詳らかにされている。

帰還後は卒先して建設工事の機械化施工を提唱せられ、昭和 25 年に発足した日本建設機械化協会の初代会長として幾多の難局を突破して、今日の隆昌に導かれたので、同協会では名誉会長に推戴した。

また昭和 31 年 10 月、中華人民共和国中国科学院からの招請により、日本学術会議水利科学訪中代表団の団長の重責を負われ、両国の技術親善に大きな成果を挙げられた。

土木学会では、昭和 5,6 年常議員、同 14 年副会長、引続き 16 年第 29 代会長として学会の運営に尽力せられたのみならず、土木技術界の発展のために貢献せられた効績まことに顕著であつたので、昭和 31 年度通常総会の決議により名誉員に推挙された。

君は特に若い技術者の指導訓育に意を注がれ、温容をもつて後輩の指導につとめ、また土木技術の振興についても深い関心を持たれ、当学会の土木振興対策委員会委員長として、その成果を挙げる緒についたのである。

君は生来健康に恵まれ、すべての物事に、心魂を傾注して努力せられていたのであるが、去る 4 月不幸病魔のおかすところとなり、昭和 32 年 (1957) 8 月 13 日広く斯界に惜しまれつつ、その輝かしい生涯を終えられた。

なお生前の効績を称え、特旨をもつて、勲二等瑞宝章を授けられたことは、真に光輝ある生涯を飾るものといえよう。

本学会は、君の葬儀にあたり、霊前に香華を供え、弔詞を捧呈したが、ここに重ねて哀悼の意を表する次第である。

*り、大阪土木出張所に転じてからは、約 10 年間淀川の改修増補工事に従事してその蘊蓄を傾けられた。

昭和 4 年、内務省土木局第一技術課長、東京土木出張所長を経て、昭和 14 年内務技監の要職につかれ、土木技術並びに行政面に、君の卓越した識見を反映せ